

平成 28 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	呉市立阿賀小学校		
学校長氏名	山下 伸一	栄養教諭氏名	山本 奈緒美
職員数	39名	児童・生徒数	582名

1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

- 朝食摂取率95%以上をめざしてきた。学校評価の目標値にあげて、学期に2回ずつ調査をしている。昨年まで朝食を食べている児童は、毎回96%を超している。今年度はさらに朝食に野菜を食べているかを質問に加えた。そして、食育朝会やランチルームでの指導を通して、食事には野菜を食べることの大切さを知らせた。そのことにより、毎日野菜を食べてくる児童もだんだん増えてきた。現在、半数以上の児童が毎日野菜を食べていると答えている。時々食べる児童を含めると79%の児童が野菜を食べる必要性を感じている。来年度はもっと多くの児童が野菜の大切さを知るよう指導していく。

2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

- 残食率は、平成26年度の平均3.9%から平成27年度は平均2.7%となり、かなり減ってきた。しかし、今年度は3.3%だった。新しいメニューのひろしまんぷくシャキシャキサラダの残食率が多かった。また、野菜をたくさん使用した献立のもやしのチャンプル、ゴーヤチャンプル、渦潮汁、きのこスープが多かった。調理方法の工夫を含め、残食を減らしていけるように指導をしていく。平均的な目標値の2.5%を目指していく。
- 担任とのT.T授業を年度初めに日程も含め、計画してきたので、各学年3時間以上の授業をした。食育の授業は栄養教諭とともに行うことが、児童の理解を深め充実したものになることを共通認識していきたい。

3 食育の目標に対する具体的な取組**【取組1】（テーマ） 本校の食育推進委員会の体制をよりよくしていく。**

- 昨年度、校長を中心とした食育推進委員会を設置していたが、定期的に行うことができなかった。その反省をもとに今年度は年3回実施することができた。来年度も確実にやっていく。
- 食育朝会の内容を食育推進委員会で話し合うことができた。生活朝会との関連も図り、学校全体で取り組むことができた。校内交通安全週間に生活朝会の時の給食の運搬ワゴンについても児童に対して安全に配慮して運搬が行われていることを理解させることができた。
- 食物アレルギーの対応について、全職員で共通認識をすることができ、アレルギー食を対象児童に確実に手渡している。
- 「朝食を食べてくる」という児童の中には野菜を食べていない場合があるので、生活アンケートで今年度は「野菜を食べた」かどうかを質問に加えた。

【取組2】（テーマ） 児童の体型に合わせた栄養量を考える。

- 給食の残量は、1学期より3学期の方が減っているが、児童の身体は大きくなっているため、栄養量を少しずつ増やしていくように考える必要がある。
- 体型に合わせた栄養量を提供することが、児童の残食率にも関係してくると考えられるので、児童の体型を入力して適正な栄養量を考える必要がある。

【取組3】(テーマ) 減塩給食を考えていく。

- ・ 呉市内の共同献立では、毎年減塩給食に取り組み、それぞれの献立の塩分について少量でも減らしていくように献立検討をしている。できるだけ、ルウは手作りし、スープは減塩のものを選ぶようにしている。わずかではあるが、0.1gの塩分の量を減らしていけるように考えている。平成28年度の平均塩分摂取量は2.42gである。昨年度2.43gだったので、来年度以降、米飯給食の回数を増やすことでさらなる減塩給食を実施していきたい。

4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

- ・ 阿賀小学校のPTAの給食学習会(試食会)の日を「ひろしま給食100万食」の献立の日に合わせてしている。保護者の方にもひろしま給食100万食の取組を理解してもらえるようにしている。
- ・ 地域のスーパーマーケットや阿賀まちづくりセンターにも給食だよりを配布し、広く地域の方々に学校での取組を理解してもらえるようにしている。
- ・ 夏の親子ふれあい料理教室では、「ひろしま給食100万食」の料理を取り入れている。給食献立に登場するのは10月のひろしま食育ウィークの時であるが、実習に取り入れ、今後家庭でも実際に作ってもらおうと取り組んだ。
- ・ 栄養教諭、学校栄養職員の献立作成では、献立委員会に原案を提示して給食を行うようにしてきた。今後は、呉市教育委員会の協力も得て、「ひろしま給食100万食」の献立に合う料理を呉市の児童から募集して実際の給食に取り入れていきたいと考えている。時期的なことも考えて、1月の給食週間の時期を利用して紹介していきたい。

5 取組に対する成果と課題

【成果】

- ・ 食育朝会だけでなく、生活朝会の時にも、「廊下、階段を走らない」という生活目標の中に走っていると給食のワゴン車とぶつかってしまうということに気付かせ、給食調理員の作業のようすに目を向けるような取組をしていった。調理の時だけでなく、給食のワゴン車を運ぶ時も安全に配慮してくださっていることに気づける児童を育てていった。
- ・ 「朝食を食べてくる」という取組では、とにかく何か食べて来るということだけでなく、「野菜」を食べてくることに取り組めたことは、一歩前進である。

【課題】

- ・ 「食」の大切さを日頃より児童全体に伝えていく必要がある。
- ・ 「朝食を食べていない」という児童への取組は、担任と連携し家庭への働きかけをしていく必要がある。
- ・ 「朝食を食べてくる」という取組は今後も続けていきたいが、野菜を必ず取り入れるということも児童から家庭へも働きかけが必要である。

6 今後の取組に向けた改善方策について

- ・ 食育推進委員会の継続は、年に3回以上は行っていく。話し合った結果を全職員に伝えていく。
- ・ 「朝食」の取組も保健体育部を中心に今後行っていく。「生活アンケート」の中に野菜を取り入れることについては、食育通信に野菜の料理紹介を入れていく。